

高校生と市長との

 府みらい会議

～第2回よっちゃばれ放談会～

【テーマ】 甲府市の未来を創るために・・・

開催レポート

2019年8月

高校生と市長との甲府みらい会議

1 目的

本事業は、高校生が市政やまちづくりに関する意見やアイデアを発表することができる機会を作ることにより、発想の柔軟性や創造性を持つ高校生の市政やまちづくりへの積極的な参加を促進するとともに、将来の甲府市を支えていく担い手の育成や郷土愛の醸成に繋げることを目的とします。

2 実施日時・場所

日時：令和元年8月6日（火曜日） 午前9時～ 午後0時30分（午前8時45分集合）
場所：甲府市役所 本庁舎1階 市民活動室

3 実施方法

高校生が事前にテーマに沿った調査研究を行うなかでとりまとめたプランを市長に発表し、その後、プランを基に、市長をはじめ、参加チームとの意見交換を行います。

4 募集テーマ/発表内容

募集テーマ「甲府市の未来を創るために・・・」を実現させるためのプランを、次の4つの内容のいずれかの視点で考え、発表します。

- (1) 未来の甲府市に向けた提案
- (2) 日常生活の中から感じる課題を踏まえた提案
- (3) テレビや新聞などで報道されている様々な出来事を踏まえた提案
- (4) 甲府市が行っている取組みに対する提案

5 参加高校（順不同）

甲府第一高校（6名）、甲府西高校（2名）、甲府南高校（4名）、甲府城西高校（7名）、山梨英和高校（3名）、駿台甲府高校（4名）、甲府商業高校（5名） 計7高校31名

6 スケジュール

8:45～8:55	オリエンテーション	
9:00	開会	* 司会進行：子ども政策担当課長
9:00～9:05	樋口市長あいさつ	
9:05～9:25	甲府西高校	「世界が広がる場所を作る」
9:30～9:50	甲府南高校	「甲府の魅力で人口減少対策」
9:55～10:15	甲府商業高校	「若者と一緒に街を活性化！甲府大作戦！」
10:15～10:25	休憩	
10:25～10:45	駿台甲府高校	「甲府学園都市計画」
10:50～11:10	甲府城西高校	「共生社会の実現に向けて～誰もが住みよいまちづくり～」
11:10～11:20	休憩	
11:20～11:40	山梨英和高校	「令和新時代！信玄も待望！城下町がよみがえる！！」
11:45～0:05	甲府第一高校	「甲府市フォトロゲイニング」
0:05～0:20	フリートーク・樋口市長総評	
0:20～0:30	記念撮影	
0:30	閉会	

※各高校の発表資料は、発表資料集を参照

あいさつ 樋口 雄一 甲府市長

本日は、夏休みの期間中にもかかわらず、「甲府みらい会議」に、市内の7つの高校から、このように多くの高校生の皆様にご参加いただきまして、本当に嬉しく思います。ありがとうございます。

さて、平成から令和へと新時代の幕開けとなった今年、「故郷こうふ」は、武田信玄公の父、武田信虎公が1519年に川田町から躑躅ヶ崎(つつじがさき)、今の武田神社のある位置に館を移し、甲府の礎を築いてから、500年という記念の年を迎えるとともに、甲府市の市制がスタートしてから130周年という節目を迎えました。

また、今年4月1日から、甲府市は「中核市」として、未来に向けた新たな一歩を踏み出したところです。

私自身、この甲府市を、誰もが未来に夢や希望が持てるまちとして、また、より一層、市民に笑顔と元気があふれるまちとして、次の時代に引き継いでいきたい、と思っています。



そこで、未来の甲府市を担っていく子どもたちが夢や希望を持ちながら、たくましく成長できるよう、「甲府市」について考え、自分自身の夢や想いを伝える機会として、このような場を設けることにしました。

若く、柔軟な感性を持っている高校生の皆さんが、「甲府の未来を創るために・・・」というテーマのもと、仲間と話し合い、協力する中で、甲府市のどのような現状に着目し、どういった発想で「甲府の未来を創るための」取組を考えたのか、私自身、その発表を聞くことをとても楽しみにしています。

本日は、多くの方々に前にして発表していただくこととなりますので、緊張もするかと思いますが、笑顔で表情豊かに発表していただき、おもしろく、奇抜で、柔軟なお考えを私や市職員に提案していただきたいと思っておりますし、同世代の方がどういう発表をするのかも、よく聞いていただきたいと思っております。

皆さんと一緒に充実した時間を過ごしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は、それぞれの発表に関する意見交換のほか、フリートークの時間を設けておりますので、この機会に、未来の甲府市を担っていく高校生の皆さんの想いをお話ししていただき、普段考えていることや願っていることなどを、お聞きしたいと考えています。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。



甲府西高校 チーム：さくらんぼ
プラン：『世界が広がる場所を作る』

【発表者】田中敬子さん、田中愛子さん

【プラン概要】

私たち2人は甲府巡りを通して、甲府市の素敵なおとろや魅力をとくさん知りました。

しかし、高校生をはじめとした若者たちは、甲府市の魅力に気づけていないと思いました。そこで、もっと若い人たちに甲府市の良さに気づいてもらうため、私たち高校生が甲府のまちづくりを考へる事で、同世代である高校生の甲府市への興味や関心をもってもらえるのではないかと考へ、甲府市のまちづくりを考へる「ミライト KOFU」を思いつきました。また、甲府市には高校生が安心して自分の意見や考へを共有したり、とくさんの人との関りを通じて自らの世界を広げることのできる居場所がないため、高校生のやりたい事ができる場所「未来校」を作りたいとも考へました。

1 ミライト KOFU とは

ミライト KOFU とは、高校生たちが日頃思ひ、考へたこと、まちづくりについての意見やアイデアなどを自由に話し合ひ、高校生が自らプランを提案し、甲府市のまちづくりに対して実際に活動する団体のことです。ミライト KOFU には、「甲府市の未来を明るく＝bright する人たち」という意味が込められています。

高校生目線でもちづくりを考へることで、同世代の若い人たちにも甲府市に興味をもってもらえるようなまちづくりができると思います。高校生だけで動けることは自分たちで実行します。高校生の力だけで実行できない場合は、地域の高齢者ボランティアなどの大人たちにサポートしてもらいながら高校生たちが主体となって活動することを考へています。

○活動メンバー 甲府市のまちづくりに興味があり、積極的に活動できる高校生

○取組み 定期的にメンバーで集まり、プランを提案して、月に 1-2 回活動
 内容：まちづくり、マルシェなどのイベント企画、SNS 等による情報発信、企業への協賛依頼 等

2 未来校とは

未来校とは、高校生が未来に向けて挑戦できる場所、高校生のやりたいことができる場所のことです。活動場所となる建物は、まちなかにある空きスペースをリノベーションして、高校生が作り、高校生が主体となって運営することを考へています。

この場所で学年、学校、世代を超えた交流、地域の人との交流を行うことによって、高校生の視野を広げたり、高齢者等の活躍の場にもなると考へています。この場所を通して、高校生と地域の人や高齢者などとくさんの人が関わりながら、みんなで未来の甲府市を創っていきたいと思います。

○具体的なスペース

- ・ イベントスペース…高校生がやりたいイベントなどを開催する。高校生以外も利用でき、地域の人や高齢者の人など様々な人との交流ができる場所
- ・ 勉強スペース…高校生が勉強でき、学びを深める事のできる場所
- ・ ご飯スペース…塾の前に高校生たちがバランスの良い食事を摂ることができる食堂のような場所（高齢者を中心に料理を作ることができる人たちを募る。高齢者にとっての活躍の場にもなる。）



【意見交換】**樋口市長**

2人のほかにも「ミライト KOFU」に賛同している人はいますか。

甲府西高校

今回のプレゼンを私たちの友人にもしてみましたが、同じ部活をしている友人などから賛同してもらえました。

樋口市長

3年間しかない高校生活の中では、高校生は勉強や部活などで大変忙しいと思います。その中で、さらに「ミライト KOFU」の運営にも携わりたいということでしたので、なるべく多くの人に関わってもらわないと少人数では負荷がかかってしまうのかなと思いました。

このような活動を行うにあたって、公共施設のスペースも活用できるよう検討したいと思いました。例えば、本日の会場となっている甲府市役所の市民活動室も公共的な活動をする方にお貸ししています。さらに、今年4月からは市役所本庁舎の会議室も廉価でお貸ししています。中・高校生の皆さんがこういう活動をしたいという具体的な声をお聞かせいただく中で検討に値するのかなとも思いました。

また、空き家のリノベーションも進み、少しずつ新たな若い経営者の店舗ができていたり、ゲストハウスもできています。そういうところを整理しながら、お二人の提案に何かマッチするところがあるのかも調査したいなとも思いました。

2人も今回の素晴らしい提案をさらに仲間と共に醸成していただき、また、私たちも長野県茅野市にある「CHUKO らんどチノチノ」を学ばせていただきましたので、お互いの政策的な考え方をすり合わせるができるようになればよいと思いました。今後の参考にさせていただきたいと思います。

最後になりますが、発表の中で、甲府市はカフェが多いというお話がありました。私が若い頃には人口あたりの喫茶店が多かったですし、喫茶店のほか理容室や歯医者が多いまちだったということ思い出しました。この名残でカフェが多くなっていると思い、面白かったです。

甲府城西高校

甲府市の高校生が甲府市のまちづくりに貢献するような活動がないので、もし、このようなものができれば、甲府市の高校生が協力して、まちづくりに貢献できるのでいいと思いました。

司会

ここにいる皆さんも興味があれば、この「ミライト KOFU」の仲間になっていければいいと思いました。

以上

甲府南高校 チーム：甲府南高校
プラン：『甲府市の魅力で人口減少対策』

【発表者】花形幸紀さん、久保島裕輝さん、大矢美贈さん、土屋稜翔さん

【プラン概要】

山梨県では、近年、人口減少が進んでいます。さらに、空き家が増え続けているという現状があります。こうしたことから、私たちは、空き家の活用によって、人口減少対策に繋がられないかと考え、今回提案します。

1 なぜ空き家が増えるのか（空き家が増える理由）

- ・ 空き家の片付けが面倒くさい。
- ・ 空き家の管理を頼める人や業者が少ない。
- ・ 家財（仏壇等）の捨てられないものがある。
- ・ 住宅が傷んでいるため、売ることができない。

2 具体的な提案内容

(1) 困っている持ち主へ向けての窓口機関の情報発信

- ・ 空き家持ち主の悩み相談
- ・ 法律面でのサポート
- ・ 片付けサポート（ボランティア可） → 私たち高校生もボランティアとして参加可能
- ・ 金融機関、自治体、不動産業者の連携

(2) この地域への定住を促すための手立て

- ・ 観光産業の充実や定住の促進のため、農村観光に力を入れる。
安価で宿泊することが出来るゲストハウスを増やすことで若者にも興味、関心を持ってもらう。
- ・ ゲストハウスでは普段は体験することが出来ない野菜や果物の収穫体験を取り入れる。
また、レストランなどを誘致し、連携して山梨の魅力を発信していく。

(3) 空き家を旅人と地域住民との交流空間にする

- ・ 集落単位で企業や学校の研修に使ってもらう。
- ・ 様々な文化活動（大人のための学校）や講演会、ワークショップ等の場として使ってもらう。
- ・ 生涯教育の充実（大人や子どものためのカルチャー教室）

(4) 甲府の町文化の発信～町の魅力を文化力で高めるために～

甲府市は、県立美術館・文学館、図書館などの文化拠点が離れすぎているので、文化拠点をひとまとめにすることで魅力的なまちづくりができると考え、桜座などの文化拠点が複数ある甲府市中心市街地などに町の映画館を増やしていく。

⇒現在、映画館の運営は難しいものとなっているので、行政や学校が運営を担い、新たな文化拠点となる学習の場コミュニティシネマを地域に増やしていく。

（例）都留文科大学県民コミュニティカレッジ（一般向けの公開講座）、シネマ甲斐ぶらり



【意見交換】**樋口市長**

多方面にわたって調査をしていただき、ありがとうございます。

映画や音楽、飲食などを「文化」というくくりでまとめながら発表をしていただきました。

まず、文化拠点が市内に分散してしまっているということを述べていただきましたが、ほとんどが県立の文化施設ですので、甲府市がどのように取り組んでいくか課題も多いですが、そういった課題をご提案していただいたと受け止めさせていただきました。

また、歩いて回れるという都市観光ができることが重要で、文化拠点を探せばたくさんあるというような形の甲府市の中心街にしたいと思っています。そこには、もちろん、ゲストハウスも必要だと思っていますし、地域で活動している文化人の皆さんが発表する場を作っていく必要もあると思いました。これから、さらに内容を掘り下げて、ご提案していただけるとありがたいです。

司会

今回の提案をする上で苦労した点はありますか。

甲府南高校

最初の考えでは空き家を有効活用しようと考えていましたが、市役所の方から空き家の現状をお聞きする中で、空き家を活用することは難しいという結論になりました。そこから、どうやって空き家について困っている人を少なくできるかについて考えることが大変でした。

駿台甲府高校

空き家を有効活用するというお話でしたが、空き家の改装費用等はどのように考えていますか。

甲府南高校

空き家の改装費用は、行政と協力する中で、費用をまかなっていければと考えています。

駿台甲府高校

映画を利用して甲府市の発展に努めていくと提案されていましたが、最近では、家でも映画を気軽に観られる環境が整っていると思います。わざわざ、街中に出て、映画を鑑賞してもらうためには、何か付加価値を付けるべきだと思いますが、どのように考えていますか。

甲府南高校

映画を観ることができる場所で、食事ができる環境を整えるなど、他のコンテンツと組み合わせることで、家とは違うものを楽しめたらよいのではないかと考えています。

駿台甲府高校

家ではできないことを付加価値として作っていくことで、他の人との交流にも繋がると思います。さらに提案を発展させ、お互いに甲府市を魅力的なまちに繋げていければいいと思いました。

樋口市長

空き家の活用が難しいということを理解していることを今回の提案から垣間見ることができました。甲府のまちに付加価値を付けるという考え方は参考にしたいと思います。

以上

甲府商業高校 チーム：甲府商業高校マーケティング部 プラン：『若者と一緒に街を活性化！甲府大作戦！』

【発表者】堀内彩香さん、清水怜さん、深田あかねさん、石野佑輔さん、小林倫太郎さん
【プラン概要】

私たちは、銀座通りで行われる土曜市に毎月出店する中で、甲府市の中心街に若者が少ない事に気が付きました。しかし、開府 500 年カウントダウンイベントや小江戸甲府の夏祭り等のイベントに出店した際には、高校生をはじめ、多数の若者が来場していました。つまり、魅力あるイベントを積極的に開催すれば、若者の興味を惹きつけるやすいのではないかと思います。

また、私たちは部活動の一環で、地域活性化を行っています。その中で、甲府市中心街を散策した際に、シャッターが閉まった店が多く、店舗の種類が乏しいと感じました。若者向けのお店が中心街に少なく、結果的に若者を遠ざけてしまっているのではないかと思います。

そこで、若者離れを改善する案として、次の 2 点を提案します。

1 若者が惹きつけられそうなイベントの企画について

(1) 食べ物系イベント（韓国フード祭り、激辛フェスティバル、大食い祭り）

例えば、チーズドッグやチーズタッカルビといった韓国料理など、最近の若者に人気がある食べ物を中心にお祭りを開催したいと考えました。また、このような食べ物系イベントは性別や年齢を問わないため、若者だけでなく幅広い年齢層の方も集まるのではないかと思います。

(2) 集団型戦闘イベント（水祭り）

私たちは幅広い年齢層に来てもらうために、的や相手を狙って撃つなどといった水祭りを考えました。個人戦、2～3 人など人数別で行うことや、小学生、中学生、大学生以上という年齢別で行うことによって、公平に戦えて、楽しむことができます。また、会場が汚れないようにビニールやブルーシートでカバーし、安全性を考慮する必要があると思います。

(3) 商店街の空き店舗を活用したワークショップ（体験型講座）

私たちが考えているのは、ハーバリウムや押し花を作る工作教室です。最近の若い女子や子どもに人気があり、使用する材料も 100 円均一で手に入るの、手軽に作るすることができます。

2 若者に人気の出るようなお店の展開とシャッターアートについて

ロールアイスやタピオカなどの若者に人気のお店ができれば、観光客の増加に繋がると思います。しかし、問題点として、食べ歩き・飲み歩きによるごみの放置や他店への持ち込みなどが挙げられます。この対策として、ごみ箱の設置などの様々な工夫をする必要があると考えています。

また、甲府市の中心市街地はシャッターが閉まっていて寂しい印象となっているので、シャッター街を明るい印象にする案として、シャッターアートを考えました。県内の高校生や有志の人を対象に絵を描いてもらいたいと考えています。

甲府市を盛り上げるためには、若者のエネルギーが必要です。イベントや話題性のある店によって、中心街だけでなく、他の観光地にも足を運んでくれるのではないかと思います。拡散力・影響力のある若者を味方につけることで、甲府市全体が活性化するのではないのでしょうか。



【意見交換】**樋口市長**

甲府商業高校マーケティング部ですから、まさにマーケティングしていただくなかでご提案していただき、ありがとうございます。

甲府商業高校の甲商デパートでは、大勢の地域の皆さんにお越しいただくなかで、生徒の皆さんが様々なものを一生懸命に販売する姿を拝見していましたし、学校内にとどまらず、中心市街地の第二土曜市に出店し、まちを活気づけていただき、ありがとうございます。

甲府商業高校のこういった取組みをまちの皆さんも学ばせていただいていると思います。

甲府駅北口のよっちゃばれ広場では、毎週末、行政や民間事業者が様々なイベントを行っていますが、お酒などを提供する大人向けのお店も多いので、高校生の視点も取り入れ、若者向けのものを考えたいと思います。

また、提案の中にありました韓国フード祭りや激辛フェスティバルについてですが、昨年末の12月20日から1月1日までの間に甲府駅北口のよっちゃばれ広場で行った、こうふ開府500年記念事業「開幕直前！！こうふ冬の陣～赤備え～」の中で、赤いこたつを立てて、赤いうまいものや赤い辛いものを提供するイベントを行いました。

私も、最近の韓国と日本の対立を心配していますが、甲府市は韓国の忠清北道清州市と友情都市を結んでいます。国と国との問題はありますが、地域や民間は友情・友好関係を保っていければと思っています。

また、甲府市は、韓国だけでなく、アメリカのデモイン市とロダイ市、フランスのポー市、中国の成都市とも姉妹・友好都市を締結しています。今年4月には、こうふ開府500年の一環で甲府市に来ていただきましたが、日常的に交流活動をしていくべきだと思いました。

2年ほど前からは、アイオワ州のデモイン市の方に来ていただいて、「山梨ベーコンフェスティバル」が始まりました。そういうものを、市民、県民の皆さんに周知しながら、さらに県外の方々にも楽しんでいただけるようなイベントになればよいなと思ったところです。

今年は、8月10日と11日の2日間に渡って「小江戸甲府の夏祭り」を開催します。様々なお店も出店しますし、今年は2夜連続で花火も打ち上げますので、忙しいかと思いますが、ぜひ、お祭りに参加していただいて、感想や提案をいただきたいと思います。

それから、甲府西高校の提案の中にもありましたマルシェもいいと思います。そういった取組みについては、いろいろな世代が出店する時代にもなっていますから、甲商マーケティング部の想いや実践も取り入れさせていただければと思いました。

甲府商業高校

私たちは第二土曜市をやっていますが、お客さんや通行人は、年配の方や私たちの親世代が多く、若者が少ないと思っていました。そこをどのように改善していけばよいか皆で一生懸命に案を考えたので評価していただけて嬉しいです。

甲府西高校

提案内容が具体的でわかりやすく、よかったです。もし提案のあったイベントがあったら、私たちも参加したいと思いました。もし、これらのイベントを実際にやる場合には誰が主体となっていくのですか。

甲府商業高校

若者や有志の方々をはじめ、趣味でやりたい人にも携わっていただくことが理想です。しかし、それができない場合には、私たち高校生も参加、協力して、盛り上げたいと考えています。

甲府西高校

若者に人気が出るような店を展開するとの提案がありましたが、若者に人気のあるお店に実際に甲府市に入ってもらうのは難しいと考えますが、どのように考えていますか。

甲府商業高校

確かに、甲府市に若者に人気のお店が入ってくるのは難しいと思います。しかし、山梨にそういうお店がないから東京などに若者が出ていっている現状があると思います。もし、このようなお店が甲府市にできれば、甲府市に人が集まるので、これは挑戦的な取り組みだと思っています。

司会

若者離れが進んでいることを今回課題に挙げていただきましたが、若者である皆さんは普段どこに遊びにいらしているのですか。

甲府商業高校

私たちのグループは甲府市内在住の人が少ないので、イオンモールなどの甲府市外で遊ぶことが多いですが、甲府市内で遊ぶのであれば、岡島百貨店や山梨県立図書館、ココリなどです。

甲府第一高校

若者離れが進んでいるという課題を解決するために、若者に人気のあるお店に甲府市に入ってもらおうという提案がありましたが、やはり若者に人気のお店を甲府市に取り入れることは難しいことだと思います。ですので、提案として、武田信玄や信玄餅、甲州印傳などの甲府市や山梨県の魅力を取り入れたほうがよいのではないかと思います。

また、シャッターアートを行うシャッターは他人のお店のものになるので、お店側がシャッターアートをやることを受け入れてくれるのかどうか気になります。どのように考えていますか。

甲府商業高校

若者向けのイベントに山梨の魅力を取り入れるという考えは私たちにはなかった考えでしたのでいい提案だと思いました。また、シャッターアートについては、今後もシャッターが閉まっているようなお店にお願いし、受け入れてくれたお店に協力してもらおうという形を考えています。

甲府城西高校

提案のあったタピオカやロールアイスは今の流行りですので、これからの若者には飽きが来てしまうのではないかと思います。どのような対策を考えていますか。

甲府商業高校

たしかに、タピオカやロールアイスの流行が長期的に続くかどうかはわかりませんが、SNSを利用して、そのときに流行っているお店を展開していくことも考えています。

甲府第一高校

私たちも甲府の魅力をどのように伝えるかを研究しています。甲府商業高校は若者離れの原因として甲府に魅力が少ないと述べていました。私たちも甲府の魅力が少ないのか、それとも魅力が伝えられていないのか調べているのですが、データがありません。何かデータはありますか。

甲府商業高校

データとしてはありませんが、実際に第二土曜市をやる中で若者が少ないと感じ、魅力が少ないからではないかと推測しました。また、第二土曜市の存在も伝えきれていないと思いましたので、それらを総合的に考える中で、甲府に魅力が少ないと考えました。

以上

駿台甲府高校 チーム：駿台甲府高校 PHOTO CLUB
プラン：『甲府学園都市計画』

【発表者】田中菜月さん、相馬碧斗さん、飯嶋美晴さん、宮川知子さん

【プラン概要】

私たちは普段写真部として活動していますが、通学をする時や写真撮影をする時に甲府市中心部の空洞化に少なからず危惧を抱いておりました。内容としては現実的でないことも数多く含まれておりますが、私たちの世代だけでなく、その子や孫たちの世代までこの甲府市が発展し続けられるようなプランを稚拙ではありますが、次のとおり提案します。

1 学生の学習スペース確保

県内の高校生・大学生に現在の学習スペースの利用に関するアンケートを実施し、150名から回答を得た。その結果、「家から遠い、行きにくい(49.3%)」「混雑していて学習ができない(38.7%)」という現状が明らかとなり、座席が確保でき、静かで集中できる場所へのニーズがあることがわかりました。この結果から、廃校した小学校やシャッター街などの交通の便が良く再開発に適した場を活用して、学生の学習スペースを設置することを提案します。

学習スペースの設置にあたって、甲府市中心街に少ない学生向けの比較的安価な飲食などを提供する店舗も誘致し、甲府市の活性化にも繋げるほか、学習スペースの利用者数増加のため、大人が「自習室」としても利用できるようにすることを考えています。

- ⇒メリット
 - ・ 甲府駅周辺の学習スペースは限られていますが、学生の学習できるスペースが設置されれば、学習環境が改善され、学生の学力向上の一助にもなります。
 - ・ 一般利用者もいる公共施設や飲食店での混雑緩和に繋がります。etc
- ⇒デメリット 職員の常駐による人件費の発生 → 月単位での利用料を設けることで改善します。

2 市立大学の設置

全国的に公立大学で特に少ない薬学部を有する市立大学を設置し、学生のニーズに応えた研究環境を整え、県外への人口流出が増えている要因の一つである進学による学生流出対策を行うとともに、市外・県外からの学生を呼び込むことを目指します。将来的には県内就職人口の増加に繋げることで、人口流出に歯止めをかけることが期待できます。

また、在宅医療・高齢者医療・終末期医療の活性化のため、実際に甲府市内で実習をする学科やカリキュラムを用意し、卒業後も甲府市内・県内の高齢化対策に役立つような入試(甲府市内・県内就職を条件にした入学者選抜や入学後の付属病院への就職を進めるなど)を行います。

設置学部：薬学部(実習先として市立甲府病院を使用)、医学部(市立甲府病院を大学付属病院化)看護学部(現「甲府看護専門学校」吸収)、商学部(現「甲府市立商科専門学校」格上げ)

- ⇒メリット
 - 県内の薬剤師就職が期待できます。
 - 現在の国公立大学薬学部の競争倍率から鑑みて、安定した経営が可能と考えます。
- ⇒デメリット
 - 人口流出に歯止めをかけたいが、就職先が甲府市内・山梨県内になるとは限らない。
 - 市立甲府病院や県内病院・薬局への就職を条件とした「地域枠」入試を実施します。



【意見交換】

樋口市長

「甲府学園都市計画」というテーマ、「大学を新設する」という考えは、衝撃的でした。

甲府市には、山梨大学、山梨県立大学、山梨学院大学・山梨学院短期大学、山梨英和大学とありますので、甲府市が県内では一番の学生街にならなければいけないと思います。各大学周辺では学生街の雰囲気はありますが、その周辺では学生街としてのインフラが足りていないのかなと思って聞いていました。山梨県の大学に入学してくる方や観光客を含めて、市外から甲府にいらした方々からは、公共交通の充実を指摘されますので、その建て直しが甲府市にとって大きな課題であります。「甲府市地域公共交通網形成計画」のほか、「立地適正化計画」も策定していますので、学生も観光客も高齢者も移動しやすいような公共交通網を充実させたいと思っています。

また、自習スペースにつきましては、他校の発表にもありました。映像も見させていただいて、集中して学習を行える大人の自習スペースも必要ということが分かりました。山梨県は人口10万人あたりの図書館の設置率が全国で一番高いので、誇れるところだと思っています。各地域の図書館やまちなかのスペースを文化的に有効に使うことは重要だと思いますので、どこにどういふものが必要なのかを調べていく必要があるのかなと思いました。

大学新設は、非常に衝撃的なものでした。昨今では、大学の経営は厳しいものとなっていますので、難しいのかなと思いますが、よいヒントになりました。

甲府市の場合は4つの大学と1つの短期大学が非常に頑張っていて、18～22歳の人口が逆に増える傾向にあり、大学を卒業して就職する22歳以降の人口が減少する傾向にあります。甲府市の社会的人口減少の波は大学卒業時にやってくるものですから、もちろん提案のような新たな学部を新設して担い手を育てることも大事ですし、入学後も甲府市に定着していただき過ごしていただけるような環境を整えることも大事です。また、1回県外に出てから、また山梨県に戻ってこられるような環境も必要だと思いますので、様々な面から考えていきたいと思っています。

駿台甲府高校

私たちも公共交通の問題点を感じています。大学生だと大学の近くに住まなければ大学に行くにくいという現実があります。バスの運行も一部に限られていたり、時間帯が限られていたり、そういうところが問題ではないかと感じています。

18～22歳の人口が甲府市は増えるとお話がありました。関東甲信越で見ると長野に引き続いて山梨県は人口が少ないので、県内に来てくださる学生が多いということを経後どのように甲府市への定住に繋げていくかが重要だと思います。

また、高齢化対策に繋げるということも含めて、薬学部と医学部の設置をご提案させていただきました。高齢化対策と若者就職とを結びつけると、さらにいい案が出ると思いました。

甲府第一高校

大人の自習スペースを開設するのは新鮮でいいと思いました。また、提案のあった大学を新設することについては、高校生は大学の卒業生の就職実績等でこの大学に行きたいと考えることも多いと思います。新設大学は就職実績等がないのに加えて、公立大学であると私立大学に比べて広告費用が少ないので、県内外の方に公立大学をPRする場合、どのように考えますか。

駿台甲府高校

PRは重要だと思います。新設大学は実績のある教授を迎えることで、就職実績等がない課題を改善している大学が多いと思います。そのため、実際に新設することになったら実績のある教授を迎えたり、充実した大学設備を整えることでカバーができると思います。また、学生は金銭面で進学できる大学が限られてしまうため、公立校として、費用面をできるだけサポートすることで学生の誘致に繋がれると考えています。さらに、全国の高校に大学のポスターを貼ってもらうことで周知を行っていくことも考えています。

以上

甲府城西高校 チーム：チーム城西

テーマ：『共生社会の実現に向けて～誰もが住みよいまちづくり～』

【発表者】矢吹晟也さん、小原豪さん、鈴木希さん、西山樹菜さん、望月野乃花さん、中村紗乃さん、三井凜さん

【プラン概要】

私たちは、次のきっかけで「共生社会の実現に向けて」という提案をしようと思いました。

- ①少子化が進んでいる原因の一つとして、子育てに関する不安があると感じたからです。
- ②子育てや生活がしやすいまちづくりに必要な施設や制度を提案したいと思ったからです。
- ③山梨県立大学との高大連携探究講座で、防災新館1階「まるごと山梨館」のメニューを英語化し、高校生にもできる活動によって、甲府市の課題を改善できると実感したからです。

1 安心して子育てできるまちづくり

- (1) マイおばあちゃん・マイおじいちゃん制度 ⇒高齢者のボランティアによる子育て支援
 - (2) 子育てお助け隊 ⇒高齢者以外の一般のボランティア方による子育て支援
- 活動内容：(1) と (2) は共に、保育園や幼稚園等の送迎などの子育て支援を行います。
- メリット：子育てに悩む子育て世代をサポートすることで、子育てしやすいまちになります。自分の力を役立てたい人の活躍できる場や生きがいの創出の場となります。等
- その他：授業の一環で「いけちゃん家子ども支援プロジェクト」を行っており、放課後学童の子どもと交流活動を行う機会が増えれば、子育てしやすいまちになります。

2 過ごしやすいまちづくりのために～親と子の視点から～

- (1) 子どもが安全に遊べる、運動できる場所をつくる。
- 既存の公園の環境整備と子どもが楽しめる遊具を置くことによって、安全に外で遊ぶ機会が増えると考えます。また、介護施設周辺に広場を造ることで、大人の目が行き届き、安心感があると同時に、子どもと高齢者の交流の場になり、子どもと高齢者双方に良い影響があります。
- (2) 交通機関の充実
- 送迎バスの運行によって、子育て世帯は幼児教育センターなどに気軽に行きやすくなるだけでなく、学生にとっては学校周辺へ停車するバスの本数が増え、利便性が向上すると考えます。甲府市から遠方の学校へ行く学生に対する通学助成を行うことで、進学の実選択肢が増えます。

3 みんなで協力しあうまちづくり

- (1) 甲府市の空き家問題～甲府市土地改革～
- 空き家の活用、甲府市、外国人、地域活性化、インバウンドの5つを柱に、未来を創る夢の甲府市のテーマパーク作ります。空き家を活用し、外国人のニーズに合わせたお土産ショップなどの集客スポットにすることにより、甲府市の地域活性化に繋がると考えます。
- (2) 甲府市民の結びつき
- 甲府市、高校生、民間企業が協力して、外国人に優しいまちづくりを推進していくことが今後は必要だと考えます。外国人が快適に過ごせるまちを創ることによって、外国人の定住が促進されることになり、人口減少や労働力不足などの課題の解決に繋がるだけでなく、高校生にとっても英語力が上がるなどの効果があると考えます。



【意見交換】

樋口市長

甲府市の制度を調べていただく中で、さらに新たな提案をしていただきました。ありがとうございます。提案の中にありました「いけちゃん家」のネーミングの由来はなんですか。

甲府城西高校

池田地区にあるので、「いけちゃん家」と言います。特別養護老人ホーム「いけだの里」というところと連携して行っています。

樋口市長

きっと「いけちゃん家」における取組みを通じて、今回の提案に繋がっていると思いました。

地方都市の甲府市は、地域の絆が強いことが売りのひとつだと思っています。本市の「マイ保健師制度」や提案いただいた「マイおばあちゃん・マイおじいちゃん制度」は、信頼関係がないとできませんので、「いけちゃん家」での取組みを通じて信頼関係を築いているのかなと思いました。ありがたいことに各地域で信頼関係を作る取組みを各団体がやってくれていますので、そういった方々と行政も連携を深めて、取組みに向けての準備ができればいいなと思いました。

また、公園は市民生活に潤いを与えてくれる場所として重要だと思います。小瀬スポーツ公園などの大きい都市公園から近所にあるチビッコ広場などの小さい公園まで色々ありますが、それぞれの公園が役割を果たすことで市民生活での役割を果たしていきたいと思います。最近、子どもが巻き込まれる事件が多いため、公園においても安心・安全が叫ばれています。かつては、公園を木で囲って公園内が見えにくいような場所が多かったですが、最近、公園内がどこからでも見えるようなレイアウトにするなど、安心・安全に遊べる公園の環境が求められていますので、今ある公園の再整備は計画的にやっていきたいと思いました。

防災新館「オープンカフェまるごと山梨館」のメニューの英語化もありがとうございます。私たちも市内にあるレストランやホテルに4か国語のメニューを用意しています。皆さんのできるところで、甲府市の国際交流の取組みに協力していただきたいと思います。また、甲府城西高校さんの提案のほか、先ほどの駿台甲府高校さんの提案の中にもありましたが、外国人や各大学にきている留学生からは公共交通をもっと充実させてほしいという声をいただいています。そういったところもしっかり課題解決に向けて取り組んでいきたいと思いました。

甲府城西高校

これから東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、山梨県にも外国人観光客が増えると思いますので、英語だけでなく、英語以外の言語にも取り組めたらよいと思いました。

樋口市長

甲府市は、国が認めるホストタウンとして、フランスの卓球とレスリングの事前合宿地となります。近々、国際交流員としてフランス出身の女性に甲府市の職員となっただき、様々な対応をしていただく予定です。甲府市はフランスのポー市と姉妹都市を結んでおり、フランスとの国際交流を深めていますので、甲府市の国際交流事業に今後も協力していただきたいと思います。

甲府南高校

「マイおばあちゃん・マイおじいちゃん」制度と「子育てお助け隊」についてですが、やはり知らない人に子どもを預けるのは安全面で不安だと思いますが、どのように考えていますか。

甲府城西高校

「マイおばあちゃん・マイおじいちゃん制度」は地域の高齢者の方々に行ってもらいますが、「子育てお助け隊」は、学校側が責任を持つなかで福祉や教育系の学生がボランティアとして行うなどすれば、安全面にも配慮できると思います。

以上

山梨英和高校 チーム：山梨英和

テーマ：『令和新時代！信玄も待望！城下町がよみがえる！！』

【発表者】福田涼奈さん、武田有可さん、長田芽唯さん

【プラン概要】

私たちは、開府 500 年を迎えたのを機に、甲府市の歴史や魅力をもっと知ってもらいたいと思ったことに加えて、リニア中央新幹線の開通を見据え、観光客に甲府に立ち寄ってみたいと思ってもらえるようなまちをつくりたいと思い、「城下町」をテーマに、持続可能な住みやすいまちづくりに繋がるよう、次の 3 つのプランを提案します。

【甲府市の観光地としての現状】

- ①「豊富な歴史・文化的資源に魅力を感じる」と答えた人が 9.8%で最下位（平成 26 年度市民アンケート「未来に活かしていきたい甲府市の魅力」より）
- ②甲府城からの景観が電線や建物によって阻害されている。
- ③甲府への観光客は 4,272,839 人で、37,687,727 人の県全体の 11%、富士・東部地域の 18,495 人の 3 分の 1 以下（H30 山梨県観光入込客統計調査より）

【提案】

プラン 1 甲府城周辺を城下町に

- ①歴史的な町並みとなるよう甲府城周辺や武田通りの建物の外壁の色を黒、白、茶に統一する。
- ②修景工事の実施 ⇒富山県南砺市は修景工事の実施により、観光客数が増加し、市民満足度が上昇。
- ③空き家をゲストハウス等に利用する。
- ④電線の地中化を図り、美観を保つ。⇒景観が損なわれず、車の交通もスムーズになることが利点
- ⑤甲府城周辺や武田通りに、季節ごとに甲府市ゆかりの花を植え、写真スポットを作る。
甲府市：なでしこ（6-8 月）、成都市：木芙蓉（7-10 月）、清州市：ハクモクレン（6-8 月）、
デモイン市のあるアイオワ州：ロサ・アルカンサーナ（5-9 月）、
ロダイ市のあるカリフォルニア州：ハナビシソウ（4-6 月）、
ポー市のあるフランス：矢車菊（4-6 月）、マーガレット（3-5 月）、ひなげし（4-6 月）
- ⑥姉妹都市のアンテナショップを作り、にぎわいを創出する。

プラン 2 楽しく、観光しやすく

- ①シェアサイクルの設置 ⇒24 時間利用可能でコストが安いことなどが利点
- ②自動運転 EV バスの導入 ⇒電気自動車のため環境にも優しく、コストが安いことが利点
- ③新たな観光ルート ⇒山交バスとシェアサイクル、自動運転 EV バスを連携することで、
回遊パターンを広げ、公共交通機関を使った手軽な観光が可能

プラン 3 AR の活用で江戸時代にタイムスリップ

- ①お城がないからこそ、AR（拡張現実）で仮想のお城を再現するとともに、刀剣アニメのキャラクターを AR で出現させます。⇒VR に加えて、AR を導入することで他都市との差別化ができます。
- ②夜は、No-logram（空中に映像を投影する技術）で立体的で幻想的な光のお城を浮かび上がらせる。
⇒No-logram は、まだ公共の場で使われていないため、これを取り入れたら甲府市が注目される。



【意見交換】

樋口市長

甲府城跡が、今年の2月に文部科学省から国の史跡に指定されました。武田氏館跡（躑躅ヶ崎館）であります武田神社、そして要害山城も国の史跡であります。国の史跡となった城跡が1つの市に複数あるのは、甲府市と滋賀県近江八幡市、愛媛県松山市の3市だけです。このことは、市内外にアピールしていく必要があると考えています。そういう意味でも、今回いい提案をしてくれたと思います。ありがとうございます。

武田神社の向かいには信玄ミュージアムという愛称の甲府市武田氏館跡歴史館を造り、そして、その隣には民間から堀田古城園を寄贈いただきましたので、武田神社、そして武田氏館跡歴史館を核とした武田時代の家並み、町並みを徐々に造っていきたいと思います。

加えまして、小江戸という埼玉県川越市が有名ですが、江戸当時は甲府市も小江戸と呼ばれるほど栄えていましたので、市民の皆さんと今一度、甲府の歴史を見つめ直して、小江戸甲府という形でお城の南側を江戸町風に再整備していきたいと思っています。

また、提案にもありました姉妹・友好都市のお花などのアイデアは非常に面白いなと思いました。姉妹・友好都市の活用については、市役所でも検討していきたいと思いました。

開府500年をきっかけに、甲府市の歴史を市民の皆様と考えていくことに加えて、もうひとつ考えていかなければならないと思っているのが甲府盆地です。先日、昇仙峡のある秩父多摩甲斐国立公園を中心とした甲武信岳周辺がユネスコエコパークに認定されました。よく甲府盆地のことは「山の都」と言われたりしますが、国民の祝日である8月11日の「山の日」には「第4回山の日全国大会」が甲府市で行われます。南には世界遺産になっている富士山、西には南アルプス、北には八ヶ岳と、甲府市を囲む山々は世界でも認定されています。このようなすばらしい山々に囲まれている盆地は、日本中で他にないと思いますので、「山の都・甲府」ということをアピールしていく必要があるように感じています。流行を取り入れることも重要ですが、東京と同じことをやってもいけませんので、流行を取り入れることに加えて、普遍的な甲府市の魅力をみんなで思い起こしながら、情報発信していくことが重要だと思います。

皆さんが第一線で活躍する10年、20年後には、甲府市の南側にリニア中央新幹線が走りますので、新たな甲府市の未来像が浮かび上がってくるわけですが、これからも甲府市の歴史と地理的特性を考えながら、甲府で暮らすことのメリットを最大限享受していけるようなまちづくりをしていきたいと思っています。

また、空き家や公共交通の問題にも触れていただきましたが、本日発表していただいている高校生の皆さんから共通の課題として挙がっていますので、まとめて話す時間にお話したいと思います。

山梨英和高校

甲府市は開府500年という節目の年を迎え、今後はリニアも開通しますので、私たち若い世代が甲府市の魅力を発信していきたいと思いました。

甲府商業高校

2つ質問があります。1つ目は、甲府市にゆかりのある姉妹都市の花を植える点について、育つ気候や環境が甲府市とは異なりますので、花はうまく育たずに枯れてしまうこともあると思います。どのような対策を考えていますか。2つ目は、シェアサイクリングしながらARを活用することで江戸時代にタイムスリップするというアイデアは面白いと思いました。ながらスマホとなって、事故が起きやすくなると思いますが、どのように考えていますか。

山梨英和高校

1つ目の質問ですが、日本でもそのような花を育てている方がいますので、その方に枯れない工夫を聞いたりします。2つ目の質問ですが、シェアサイクルで空き家まで行き、空き家に着いてからARを使用することを想定しているため、ながらスマホにならないように考えています。以上

甲府第一高校 チーム：山梨県立甲府第一高等学校
テーマ：『甲府市フォトロゲイニング』

【発表者】山下勇樹さん、米山哲平さん、皆川佳雅さん、遠藤美湖さん、
 岡矢由菜さん、垣尾遥香さん

【プラン概要】

私たちは、甲府市を訪れる観光客数の推移を根拠に甲府市の魅力が伝わっていないのではないかと考えました。そこで、私たちは甲府市が今年、開府 500 年を迎えたことから、甲府市の歴史的建造物を通して甲府市の魅力を県外の方々に知ってもらうとともに、山梨県の観光客の半分以上が集中する富士・東部圏域から甲府市へ観光客を呼び寄せたいと考え、次のことを提案します。

【提案】甲府市フォトロゲイニングの実施

○フォトロゲイニングとは

地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、得点を集めるスポーツです。
 チームごとに作戦を立て、各チェックポイントでは見本と同じ写真を撮影します。
 チェックポイントに設定された数字が得点となり、より合計点の高いチームが上位となります。

○フォトロゲイニングの魅力

- ・開催地域を知ることができる：地図を見ながら散策するため、開催地域の魅力を味わえます。
- ・チームで行動する楽しさがある：仲間と助け合いながら行う楽しさがあります。
- ・地域の魅力を発信できる：フォトロゲイニングで訪れた場所の写真や口コミなどを参加者が SNS で情報発信することによって、地域の知名度アップに繋がります。等

○探求方法

- ・こうふ開府 500 年記念誌「甲府歴史ものがたり」を活用し、甲府市について学習しました。
- ・過去に開催実績のある笛吹市観光商工課から、フォトロゲイニングの実態と効果等を伺いました。
- ・学園祭にて校内フォトロゲイニングを行い、参加者 86 人からアンケートの回答を得ました。
 「フォトロゲイニングを知らない(64%)」「甲府市フォトロゲイニングに参加したい (92%)」
- ・8 月 2 日に千葉県で行われたフォトロゲイニングへ実際に参加して運営の参考としました。

○実施内容

- ・私たちの企画する「甲府市フォトロゲイニング」では、甲府駅から半径 5km の範囲で 3 時間かけて実施します。
- ・チェックポイントの数は、約 40 個を予定しています。
- ・従来のフォトロゲイニングと違う点としてボーナスポイントを作ります。
 甲府市の魅力を伝えるため、幅広い年齢層の方々に参加してもらいたいため、例えば、ピタリ賞 ゴロ目賞 誕生日賞などのボーナスポイントを作り、長い時間歩けない子どもや遠くまで移動できないお年寄りでも得点を稼ぐことができ、楽しめる企画とします。

○甲府市フォトロゲイニングの効果

- ・あまり知られていない場所に目を留めてもらえます。
- ・甲府市の魅力を実感してもらえます。
- ・写真が SNS を通して発信されることで甲府市の魅力をもっと沢山のの人に知ってもらえます。



【意見交換】**樋口市長**

私もフォトロゲイニングについて勉強になりました。ありがとうございました。

甲府市には、県立美術館や県立文学館をはじめ、山梨ジュエリーミュージアム、山梨中央銀行金融資料館など、たくさんの素晴らしいスポットがありますので、そういったところをフォトロゲイニングで、おもてなししていただきたいと思いました。

フォトロゲイニングは、老若男女が参加できるということですので面白いなと思いましたし、観光資源の掘り起しや魅力の発信もできるということですので、最高のスポーツなのかもしれません。

今日参加していただいている7つの高校対抗のフォトロゲイニングをやっていただくのも面白いと思いました。私も機会がありましたら参加してみたいと思いました。

甲府市ホームページには、「甲府でしかできない50のこと」というサイトがあります。このサイトには、市内のパン屋やカフェなどの飲食店など、女性の観点から見たお勧めの場所が載っています。人それぞれ甲府市のお勧めの場所を持っていると思いますので、このフォトロゲイニングの幅は広く、楽しく、ますます盛んになる可能性を感じましたので、勉強してみたいと思いました。よい紹介をしていただきました。ありがとうございます。

山梨英和高校

得点の制度と制限時間はどのようになっているのかお聞きしたいです。

甲府第一高校

フォトロゲイニングの得点は、決められた場所においてチーム全員で写真を撮ることでポイントを得られます。そして、スタート地点から遠い地点ほど得点が高く、スタート地点に近い地点ほど得点は低い設定となっています。

フォトロゲイニングの制限時間は3時間くらいを予定しています。

司会

市長からのお話を聞いて、何か感想はありますか。

甲府第一高校

樋口市長から好評をいただけたので、フォトロゲイニングを実現させたいと強く思いました。

以上

フリートーク

司会

ここからは、樋口市長とのフリートークを行います。

みなさんの発表の中で、一番多く取り上げられていたのが「空き家の活用」と「高校生の居場所」といったキーワードでしたので、これらのキーワードを踏まえた意見や今日の発表を聞いて改めて考えたこと、また、市長に聞いてみたいことなどがありましたら発言していただければと思います。

甲府西高校

今回の発表の中で、「空き店舗や空き家の活用」というキーワードがたくさん出てきました。

私たちも最初は、空き店舗を活用して、甲府市を明るくしていきたいと考えていましたので、甲府市役所の職員の方から甲府市中心街の空き店舗の現状を実施にお聞きしました。そうしたところ、私たちには空き店舗に見えているところが、実際には空き店舗になっていないといった実情を知ることができました。

空き店舗を活用した取組みを行っていく場合、甲府市役所から費用を出してもらえるものでしょうか。

樋口市長

地方都市の共通の課題となっているのが、かつて賑わっていた中心街の衰退です。

これらを改善して、いかに以前の賑わいを取り戻すかを、甲府市をはじめとする全国の地方都市がそれぞれ考えているところです。

空き家や空き店舗を活用していくためには、所有者の意向や所有の権利をもっている方の意向を聞くことが重要でありまして、それらの方々から了承を得ることや様々な手続きが必要になりますので、やはり時間がかかってしまう部分があります。

壊れそうな空き家だからといって、勝手に壊すわけにもいきませんので、きちんと手順を踏む中で、様々な手段を考え、対応しているところです。

最近では、空き家や空き店舗だったところが、所有者の意向を踏まえる中で、リノベーションされて、新しいお店としてリニューアルオープンしてきています。この流れは大切ですので、これからも進めていきたいと考えています。

そこで、中心市街地の活性化に資するような場合には、行政の制度として、補助金の上限はありますが、中心市街地空き店舗活用事業補助金というものを設けて支援しています。また、空き家を住居として活用する場合には、中央部地域等にある空き家などの有効活用と、子育て世帯・新婚世帯の定住を促進するために、「空き家改修助成制度」と「子育て世帯等家賃助成制度」を設けています。

これからも空き家や空き店舗の利活用は、個人の商店や住居にリノベーションするだけでなく、例えば、高齢者や若者、子育ての人が交流できる場などを造るなど、地域の人々の声を聞きながら、制度設計していきたいと思います。

以上



総評 樋口 雄一 甲府市長

本日の提案の中で、「空き家」「公共交通」「まちなかの学習スペース」「活動の場」「甲府市の観光振興」などのキーワードがありましたが、全てが重要でありますので、これからの甲府を担っていく皆さまからご提案していただけて、ありがたく思います。

空き家については、これからも不動産や金融機関、行政など地域が一体となって空き家・空き店舗対策に取り組んでいきたいと思えます。

また、公共交通は甲府市に住む高齢者や高校生や大学生にとって重要な交通手段ですが、もしかしたら今の路線が現状に合っていないのかもしれないかもしれませんので、他市町と連携したり、県に主体性を発揮してもらいながら路線やダイヤの見直しを働きかけていき、公共交通の充実を図っていきたく思いましたし、時代の流れに沿った自動運転なども取り入れていければと思いました。

新たな観光資源の掘り起こしも大切ですが、今ある観光資源もアピールしていかなければならないと思えます。例えば、甲府盆地を囲む山々は全て世界一級ですので、その甲府盆地の中心に甲府市があることを認識して、1日で全ての山々にいけるような観光作りをしていきたく思えます。さらに、甲府市にリニア駅ができれば、西日本からの富士山への入口は甲府盆地ですので、富士山だけでなく甲府盆地も観光してもらえるような環境整備をしていきたく思っています。

本日は、たくさん発表していただきましたが、一番嬉しかったのは、高校生ができることをする、そのような機会作りを考えてくださいという提案を高校生の皆さんからいただいたことです。

そして、もし、できれば、高校生同士の横の繋がりを作り、まちづくりや高校生の居場所づくりを継続していただき、また私たちに提案していただければ、ありがたく思えます。

私も甲府生まれ、甲府育ちで、甲府愛は強いです。私自身も、まだまだ甲府市の良さを発信できていないので、皆さんからいただいたヒントを行政にも活かしていきたいと思えます。

もし何か質問があればお話をお受けいたしますが、本日は、皆さんありがとうございました。

駿台甲府高校

空き家問題について、私たちの高校や他の学校が提案したものは、空き家ができてしまったことに対する対症療法の考え方だと思えます。これは、甲府市にも負担が出てくると思えます。

私たちは空き家ができる根本的な原因を「人口流出」と捉えて提案しましたが、甲府市は、空き家ができないようにするために、どのようにすべきだと考えていますか。

樋口市長

空き家は難しい問題ですので、対症療法は長い間続けていかなければならないかもしれませんが、この対症療法を行いながら、次に空き家ができないようにすることで、マイナスのスパイラルをプラスに転換できるのではないかと考えています。そして、高齢者が安心して暮らしていける環境、そして、子育て世代が安心して子育てできる環境、子どもたちが元気に育てる環境、こういった環境づくりをスピード感をもってやっていくことが、甲府市から人口が流出しない対策に繋がるとともに、新たな空き家を出さない対策にもなると思っています。

司会

以上をもちまして「高校生と市長との甲府みらい会議」を終わります。ありがとうございました。
以上



記念写真 市章の菱形をポーズに KOFU スマイル



本事業にご参加いただいた高校生の皆さん、ありがとうございました。

高校生と市長との甲府みらい会議

2019年8月

編集・発行

子ども未来部 子ども政策担当 / 総務課

〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1-18-1

TEL 055-237-5353